



発行所/青山同窓会 会
〒951 新潟市関屋下川原町2-635
新潟県立新潟高等学校内
TEL025-266-2131
編集、発行人/上村光司
印刷所/オリオン印刷機
〒950 新潟市南出来島1-19-1
TEL025-283-2151
FAX025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長 鈴木正二



心からお願ひ申し上げます。
今年も恒例夏の総会が、多数のお集まりを得て、より良き親睦の場となりますよう、楽しみに期待しております。皆様の日頃同窓会と母校に

青山同窓会 総会

明けましておめでとうございます。今年も穏やかな元旦で、皆様よき新年を迎えられたこと、お喜び申し上げます。

母校も、来年平成4年には、創立百周年を迎えますので、記念事業などいろいろ練り上げられた計画が実行に移され始めました。

同窓会としてもできるだけの協力を致したいと、役員、各期幹事の皆様がいろいろ働いてくださっています。これからそれぞれの担当を通じて、会員各位にも願ひに参ることで存じます。その節はよろしくご協力くださいますよう、

同窓会の最大のイベント、総会は平成2年7月19日(木曜)ホテル新潟を会場に開催されました。一千人近くが着席しますとあの大広間もぎっしりで、うれしい悲鳴でした。昨年の反省で先輩、後輩の場所がわかる様に、テーブルの番号看板はさげないとの話でそうしましたが、いかがでしたか。それにしても毎年多数の参加でありがたいことです。今年も新潟市長選挙で立候補が予定されている二人とも同窓会であり、新聞記者なども来ていましたが、さすが紳士の集まり、同窓会は政治とは別、との伝統の流れる青山同窓会でした。最多出席クラス表彰で賞品の「寒梅」を受領に長谷川義明氏が登壇されたのは、同期61回生の心配りでした。次回も盛会となりますようご協力お願いします。(総会実行委員長石田瑞穂)

平成二年度

東京青山同窓会 総会

会長 44回 斎藤伸雄

東京青山同窓会では、平成二年度総会を十一月二十一日(水)に大手町サンケイホールで開催しました。参加者は32回曾我英彦氏以下94回まで150名。新潟本部より鈴木正二会長、宮地正樹校長、岩田はす枝さん他3名が上京され参加されました。

お寄せくださいます熱意と協力に感謝申し上げます。本年もまた、益々発展されますようお祈りし、新年のご挨拶と致します。



百周年記念イベント

実行委員会 総務

59回 関根 彰圓

創立百周年実行委員会では、去る平成2年11月15日までに4回の会合をもち討議を重ねた結果、ほぼ次の具体案を得ましたのでお知らせします。
(1) 記念式典と記念講演
日時 平成4年10月17日(土) 式典 午後1時半~2時半 講演 午後2時半~3時半
会場 新潟市体育館の予定
(2) 祝賀会
日時 平成4年10月17日(土) 百周年記念祝賀会
兼平成4年度同窓会懇親会
午後5時より
(平成4年度同窓会総会 午後4時半より)
(同ホテル別会場) 校舎新築については陳情は続けておりますが、現在のところ、まだ見通しは立っておりません。
(7) 施設・設備の拡充
ピアノ・屋外照明・散水設備等の予定。

創立百周年実行委員会では、去る平成2年11月15日までに4回の会合をもち討議を重ねた結果、ほぼ次の具体案を得ましたのでお知らせします。
(1) 記念式典と記念講演
日時 平成4年10月17日(土) 式典 午後1時半~2時半 講演 午後2時半~3時半
会場 新潟市体育館の予定
(2) 祝賀会
日時 平成4年10月17日(土) 百周年記念祝賀会
兼平成4年度同窓会懇親会
午後5時より
(平成4年度同窓会総会 午後4時半より)
(同ホテル別会場) 校舎新築については陳情は続けておりますが、現在のところ、まだ見通しは立っておりません。
(7) 施設・設備の拡充
ピアノ・屋外照明・散水設備等の予定。

懇親会と祝賀会と兼ねる事になりました。各期の幹事を通して出席券をお求め願ひます。
(3) 記念演奏会
青山祭(文化祭)の一環として10月10日前後に実施予定
(4) 名簿複製
第一印刷に委託

以上計画によりまして平成3年度より実動に移ります。ことに各期の幹事の方々にはいろいろご造作をおかけすることになります。なにとぞ宜しくご助力を賜りますようお願い申し上げます。(次頁六段目へ続く)

おめでとうございませう

長谷川義明氏 (61回) 新潟市長に選ばれる

— 新市長にインタビュー —

☆ この度、新潟市の新市長 国際的にも誇りの持てる街づくりに当選され、おめでとうございませう。早速ですが、市長としての抱負をお聞かせください。

☆ 先般、ソ連の大火傷をしたアレクセイ君の受け入れ、治療において、市並びに市民レベルで最大限に尽力され、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。

☆ 市長 大変な激戦でしたが、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。

☆ 市長 大変な激戦でしたが、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。

☆ 市長 大変な激戦でしたが、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。

☆ 市長 大変な激戦でしたが、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。

☆ 市長 大変な激戦でしたが、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。



☆ 市長 大変な激戦でしたが、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。

☆ 市長 大変な激戦でしたが、皆さんから力強いご協力を賜りまして、当選させていただきました。誠にありがとうございます。

す。そして第二中学の3年間、新制高校の3年間、計6年間お世話になったので、ひときり母校に愛着があります。尊敬すべき先生、先輩、敬愛すべき同級生、友人に恵まれました。今から思うと、とても幸せだったと思います。何でも話し合える先生、友人が多くいました。そういう関係を青春時代に築く事がとても大切だと思います。

☆ 母校にいらした時は、どんな時代でしたか。

市長 戦後の教育の混乱期であり、六・三制に新しく切り替わって、新しい教育に変わりました。価値観も変わった時代なので、先生方も困ったのではないかと思います。しかしその中であって、先生との人間的接触があり、とても幸せな学生生活を送ることができました。

☆ どんな恩師の先生方がいらっしゃいましたか。

市長 先生方皆さん、大変な勉強家で、尊敬すべき方々でございました。そして退職されてもご自分の研究を続けていらしゃいます。渡辺秀英先生、阿部 正先生、大橋徳助先生、池 政栄先生など。

☆ それでは最後に大学や母校で学んでいる若き後輩に期待することがあります。期待していただけますか。

市長 先生方皆さん、大変な勉強家で、尊敬すべき方々でございました。そして退職されてもご自分の研究を続けていらしゃいます。渡辺秀英先生、阿部 正先生、大橋徳助先生、池 政栄先生など。

(前頁より続く)

募金について

総務関根先生が前述された百周年記念行事及び行事が成功いたしますよう、一年早い募金活動であります。ご寄付に対する皆様の格段のご理解をお願い申し上げます。以下、実行委員会が決定された募金要項の概略をお知らせ致します。なお、募金活動に先だって各期幹事会を、平成三年二月二十二日午後六時より山会館食堂にて(係 栃倉)

1、募金目標額 三、〇〇〇万円 (同窓会分)

2、各期目標額 (左列表)

3、募金期間 平成3年4月~9月

4、募金方法 銀行振り込み、郵便振替、現金の三方法

5、各期幹事会 平成3年2月22日(金)午後6時より山会館食堂にて(係 栃倉)

期別	目標額	期別	目標額	期別	目標額
1~33	60 万	54	70 万	75	60 万
34	20	55	76	76	50
35	20	56	77	77	50
36	30	57	78	78	50
37	30	58	79	79	50
38	40	59	80	80	50
39	40	60	81	81	40
40	40	61	82	82	40
41	50	62	83	83	40
42	50	63	84	84	40
43	50	64	85	85	40
44	50	65	86	86	30
45	50	66	87	87	30
46	60	67	88	88	20
47	60	68	89	89	20
48	60	69	90	90	20
49	60	70	91~	91~	20
50	60	71	通信	通信	20
51	70	72	60	60	60
52	70	73	60	60	60
53	70	74	60	60	60
計					3,000 万

なるべく下記のようにお願いします。

1口 5,000円

1~80回.....1人2口以上

81回以降.....1人1口以上

名簿作成について

百周年の記念事業のなかで同窓会名簿の作成が大きな目玉となります。九十周年に作成してから十年経っていますので、住所、勤務先等異動が多と思われるので、各期幹事さんのお手元にある最新の同期名簿を事務局宛一部提出くださいますようお願い申し上げます。それを元に名簿業者より各個人宛に正確な調査致しまして、名簿の正確を期します。また、各個人において平成3年中に異動があった場合は十二月までに事務局へはがきにて、お知らせください。

宮地校長

教育功労者として 文部大臣表彰に輝く

昨年、師走もおし詰まった二十一日、宮地校長先生は教育功労者として文部大臣表彰をお受けになりました。同日正午から奥様ともども国立劇場で受賞式に臨まれ、その後皇居で天皇陛下に拝謁する栄に浴されました。さらに同日夕、東映ホテルでの新潟高校職員による受賞祝賀会に、ご多忙にもかかわらずご夫妻に出席していただきました。

校長先生は、新潟高校時代を含め高校教諭として14年、教育行政に携わること実に15年、教頭、校長として10年とあり、特に県教育委員会関係では、教育庁内で要職を歴任後、一時黒崎高校長、県立教育センター所長を務めた後、再び戻られて教育庁全体の要である教育庁参事に就任、この同時に高校教育課長も兼任される中、それぞれの重責を全うされ、県高校教育界の指導的立場で活躍されました。また新潟高校にあって、校内外の仕事で忙殺される中、職員それぞれとの意思疎通にも意をそそぎ、その豊富なアイ

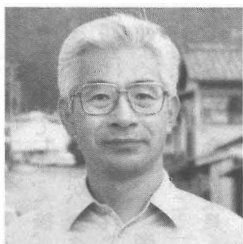
ディア、また適確な判断を披歴され職員をリードされています。そして、先生は豪放磊落であると同時に、細かいことにもよく気のつかれる繊細な感覚をお持ちで、校内外の大勢の方々の心をとらえて放さない人情家でもおられます。この三月に、先生は退職されますが、若き日々に新潟高校で教鞭をとり、青山卒業生を愛し、そして本校で定年を迎えられる校長先生のご功績に思いを馳せながら、このたびの校長先生の受賞の榮譽を心から皆様とお喜びいたしたいと思えます。

(校内幹事 板倉 浩)



母校卒業後、新潟大学医学部に進み、西ドイツマックスプランク脳研究所に留学の経験もある脳外科専門の信楽園の小林啓志医学博士を昨年九月に母校にお迎えして、「脳死」をテーマとする講演が行われた。

「脳死」は、「病名告知」、「安楽死」、「遺伝子の組み換え」などととも、生命の倫理に絡む新しい問題に対処しなければならぬ最近議論を呼んでいる問題である。博士は講演の中で「人口呼



信楽園脳外科部長 小林啓志氏 (66回) 母校で講演

平成2年の新学期早々、米 & ジオグラフィーなる講座国から十一名の高校生が、日を担当し、その授業の一環と本の文化の研修を目的に、来校しました。6日間の滞在中彼等は本校の生徒の家庭にホームステイをして相互の理解と友情を深め、また新潟市内外の文化と地理の研修に励み十分に満足して帰りました。

青山同窓会収支決算書・収支予算書

科目	平成元年度決算額	平成2年度予算額
	(自 平成元年4月1日 至 平成2年3月31日)	(自 平成2年4月1日 至 平成3年3月31日)
繰越金	466,743 円	628,000 円
入会金	1,311,000	1,294,000
会費	3,968,000	3,500,000
雑収入	16,107	10,000
合計	5,761,850	5,432,000

支出の部

科目	平成元年度決算額	平成2年度予算額
人件費	3,002,400 円	2,850,000 円
通信費	580,860	620,000
印刷費	80,752	100,000
慶弔費	53,011	75,000
会報印刷費	370,800	430,000
会議費	262,820	300,000
卒業生記念	192,000	230,000
青陵祭補助	80,000	10,000
通信制補助	324,000	250,000
退職積立金	100,000	100,000
諸費	6,593	27,000
予備費	80,000	350,000
合計	5,133,236	5,432,000

収支差引残高 628,614 円 (次年度繰越)
平成2年4月28日
上記の通り相違ないことを確認致します。
監事 福山 健 ◎
監事 早福 卓 ◎

手作りの国際交流

沢田俊一 (67回)



理解と善意と協力に恵まれながら、手紙、電話、ファックスのやりとりを重ね、約半年を費やして完了しました。「パンフィック・オーシャンノコッチガワノヒトタチモジブンタチトオナジダッタ」と米国高校生たちは大発見したように目を輝かせていました。が、同じような認識を本校の生徒諸君も持ったようでした。この共通の認識が、いつか将来、何かの形で実を結んでくれることが、この計画の推進に携わった全ての人達の願いです。

それにしても、授業の一環とし海外にその場を設け、その研修に対して単位を認定するというダイナミックな発想が実現できる彼等の教育環境には見習ってよい点があるようです。

呼吸器や心臓移植の出現により、呼吸停止や心臓停止が死の定義の役をなさなくなった。死の新しい定義づけが必要な中で、脳死に関連する問題をどう整理し、本質をとらえて対処すれば良いのであろうか。」と問題提起をした上で、「100%完全な解答がないまま対処しなければならぬ場合、最も大切なことは、それに

かわる人々の信頼関係を保つために、人々が守って行かねばならない基本が倫理ではないだろうか。人間の英知を期待したい。」と強調されました。母校の一、二年生を対象に行われたこの講演は、医学の深さやそれに携わる人の飽くなき研究心に感銘を受けた講演会であった。

福田茂夫君を偲ぶ

42回 菊地 勲

洋々たる信江の水、流れて再び返らず
 福田君が平成二年十二月十三日に逝去された。嗚呼、悲しき極みである。



内状の發送、出欠者の集約もやってくれていた。

十一月二日に、珍しい卒業当時の卒業生一覽表と最近の會員名簿をコピーしたものに、銘酒越の寒梅「を添えて届け

その後、同期会の写真四枚を送ってあげたが、病室にまでもって行かれていたとの事である。

十二月十三日、虫が知らせられたのか、胸騒ぎがするので、病室へ駆け付けた。

「家族のご厚意で病室へ入ることができた。長男始氏から医師は「今日が山だ。」と言っていると聞かされた。しばらくして、眼を開けられたので、来意を告げると、私のことを分かってくれた。二〇

福田君は、昭和五十四年以来、事務局を引き受け、同期会をリードしてくれ、毎年の例会も一度も欠かした事はなかった。

今年の同期会は、一泊二日の瀬波行きとなったが、この打ち合わせも一緒にやり、案

なかった。
 奥さんのお話しでは「あまり苦しまずに、安らかに息を引きとった」とのことで、これが僅かの救いである。

今君が逝ってしまった後、大きな虚しさを感じるが、我々同期会は、君が教えてくれた「仲よく、励ましあって、楽しい集まりを続けていこう」をモットーに、今後も末長くやって行くことを誓ひする。我々同期生一同は、心から安らかにご冥福されることを祈り上げる。 合掌

岩田さんの送別会

40年あまりにわたり同窓会の事務局をあずかって、何かと同窓の我々のめんどうを見てください。岩田はす枝さんが、この度退職されました。有志により送別会を、

各期幹事に呼びかけました。四十数名の参加者がありました。会は十月八日ホテル新潟で、赤羽幹事長の司会のもと、鈴木会長のあいさつで始まり、

当日午前中は、子供さんが一緒に感謝状が贈呈され、それに對して岩田さんより挨拶がありました。乾杯は福山さん、その後出席の方々一

ぎへと絶え間無く、次々に運ばれる料理もなかなか減りません。それぞれ岩田さんともにも各期をまとめて来られた幹事さんの話、同窓会の歴史を聞く思いでした。上村副会長が、和やかで、本当に楽しかったと言ったのが参加者の声でした。(石田 記)

同窓者の皆様へ

岩田はす枝

青山同窓会私の全生涯と申しても過言でない程の長い年月を過ごさせて頂きましたところ、いまこを去るに及んで、懐かしい方々のお顔が走馬燈の如く私の脳裡を駆けめぐります。

昭和二十六年四月、秋草道人会津八一先生揮毫による看板のかけられた「青山倶楽部」へ勤めさせて頂きました。昭和二十四年、同窓有志によって、古町六番町方松堂の二階を借りて設立されたものとき

は、設立当時からお勤めの志賀さんが居られました(志賀哲夫先生御母堂)。気品ある美しさと豊かな教養は、豊富な話題で、毎日おいでになる方々を楽しませて下さったように思われます。その頃の私

は、片隅で楽しいお話を聞かせてもらって居ました。当時の同窓会長さんは、長谷川寛さん(12回)でした(弁護士で新潟精神病院理事長)。温厚なお人柄が臉に浮かびます。毎日おいでになる方は長谷川会長さん、本田長作さん(19回)、小山九一さん(35回)などで割にお暇な

方、又は忙しい毎日からのがれ息抜きにおいでになる方、地方の豪農の方などで、皆様仕事も利害関係も忘れて、よき時代の懐古と、若き日の思い出話などに花を咲かせて居ました。その他、集会などにもお使いになり、政界、財界、学会と多方面の方々が集まって居られました。今考える



と、「隔世の感あり」と思う程のんびりとして居ました。昭和二十九年母校の火災、復興期成会の結成と、東京遊学の思い出話など振り捨てて毎日が募金のあけくれでした。事務所は本町八番町の白鷺さは変わらぬもの、より豊かに

無償でお借りして、学校へ移るまでの間、二年余りお世話になりました。昭和三十三年、長谷川会長さんの健康すぐれず、鍵當會長さんに変わられました。幹事は斎藤希式さん(33回)、お二人の名コンビで校舎復興に全力を注がれました。何より母校を愛し、同窓会を愛されたお二人の情熱は、皆様のご協力を得て、立派に校舎を完成され、同窓会の基盤と発展を築かれました。そのお二人も今は故人となられ、

三浦弘子

このたび青山同窓会事務局の仕事を、岩田さんより引き継ぐことになりました。主人の転勤で新潟へ来て八年になりますが、長い間専業主婦にぬくぬくと浸り仕事から遠ざかっておりましたので、気楽にこのお仕事を引き受け致しましたが、皆様のご期待に沿えるかどうか不安です。でも皆様の青山同窓会を愛し、大切にしていらっしゃる心に触れて、持前の気力と明るさで一生懸命頑張るつもりですので、宜しくお願い申し上げます。

皆様がこの事務局で、思い出話に花を咲かせて下さいませようお待ちしております。

よみがえれ!! グミ原

68回生三十周年記念 同期会 開催

赤い夕日が校舎をそめて、グミの木蔭に弾む声——。共に学び、共に遊んだ我々青山六十八回生三百五十余名が新潟高校の校舎に別れをつけて、早いもので今年は満三十年。これまで、同期会活動は必ずしも活発とは言えなかった。そこでその反省の意味も込めて、今年春先きより有志諸君の間で三十周年の節目の年を盛大に、かつできれば有意義に祝おうではないかと話もあがってきた。

念パーティは九月二十三日に開催。毎年二回同期会ゴルフ大会を開催しているが、今回は三十周年記念でもあり、参加者約四十名、スコアの方はともかく和気あいあいの楽しいコンペ(於 紫雲ゴルフ場)となった。

記念パーティ会場はイタリヤ軒。渡辺先生をはじめ恩師の先生方(八名)と宮地現校長先生を来賓としてお迎えした。同期生の出席は約百名。やあ久しぶり!、なつかしいワ!の挨拶で始まり、青山応援歌合唱まで、大いに語り、大いに飲んだ。パーティー閉会後はほぼ全員で三カ所の二次会場に集合、改めて思い出話に花を咲かせた。

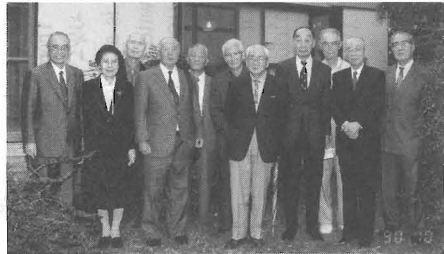
翌日九月二十四日は、記念イベント最後の企画、グミの木植栽を行った。近く新設されるその名も青山海浜公園に約六十名の諸君が参集、赤トンボ舞う秋晴れの朝、日本海に面した小高い丘で代表五名がグミの苗木二百五十本を植樹した。ご出席いただいた児玉新潟市公園緑地課長から「皆さんの志を生かし、末永く維持管理したい」とのお話があった。このグミの木植栽は新聞、テレビで報道され、環境問題、自然保護の重要性が叫ばれる昨今、いささかの波紋を投げかけたのではないかと考えている。

第一回の幹事会が一月三十日、以後回を重ねること十数回にわたり企画を練った。「せっかくの卒業三十周年を飲み会だけで終わらせるのは惜しい」との意見からまとまったのが「白い浜辺に真っ赤なぐみの実、なつかしい風景をもう一度」をメインコピーとする新瀧日報一ページ全面意見広告の出稿企画。費用の点で問題もあつたが、幸い意見広告費同者は二百三名、また協賛広告も順調に集まり、九月十八日の朝刊に無事掲載できた。さて、記念ゴルフ大会と記

かくして我々の三十周年は終了。四十周年記念大会で元気で再会しようと思ひあいながら散会した。(幹事北村)

在京新中三五会

秋の集い



さる十月二十六日(金)、古都鎌倉にて親睦会を開催。当日は、秋晴れの好天に恵まれ、健脚の入沢君を先頭に、八幡宮、頼朝廟所、大塔宮を参詣、浮明寺まで鎌倉の静寂な町並みを散策。料亭「青砥」で風味ある昼食を共にし、大いに歓談、お互いの健康を祝福し、再会を約して午後三時解散。

出席者は写真右より 近藤百之、笹川正男、入沢健三、籠島秀雄、尾崎三夫、斎藤昌治、渡辺秋策、丸山求蔵、櫻井貞一、山名夫人、山名栄一

阿賀野川の川下り

青山三九会

今年の例会は川下りを入れてホームグラウンドの咲花温泉で秋に開くことに予定し、春早々に旧友諸君にハガキで予告した。

十一月六日、あまりよい日和ではないが新潟駅西口の東急イン前には定刻午前十時に次々と旧知の顔が集まった。東京より猪君、中村健君、めずらしく関根進君、地元からはこれも初顔の大塚信一君に宮村定男君、福井敏雄君とい

た日本酒ワンカップの缶を切りチビリチビリと味いながら船頭の説明を聞く。水量の豊かさや両岸の迫った山々の姿がこの川下りの特色である。五本の鉄橋をくぐり休憩所売店の「阿賀の里」をすぎ佐取館の棧橋に着船、三階の大浴場で一浴して宴席につく、乾杯は猪君の音頭で開宴、やが



は既に現役を終わっているかまだ元気で働いている人もある、さすがに年齢、あまり酒量はすすまぬが昭和五七年六月より今年の九月まで八年間で三十四人の旧友が「あの世」に行った。こうして一席に集まれるのはまことに幸せである。やがて母校の旧校歌を福山の音頭で斉唱し再会を期して一路新潟へ。

本日の出席者は左の通り。猪 初男、中村 健、関根進、五十嵐健治、宮村定男、佐藤平八、川崎孝治、福井敏雄、大塚信一、涌井十一郎、小林清市郎、岡崎清彦、皆川竹次郎、皆川登良夫、福山健、(計十五名) 平成二・二一・四 福山記

事務局移転及び直通電話設置のお知らせ

青山同窓会の事務局が、平成二年十月、青山会館の二階に移転致しました。和洋折衷の落ち着いた行まいになりました。またそれに伴い直通電話は左記の通りになりましたので、よろしくお願いいたします。

青山同窓会事務局直通電話 (〇二五) 二六六一五二六八

42 回同期会

瀬波温泉で一泊

42 回 菊地 勲

今年、母校卒業後五十五年の節目の年に当たるので、瀬波温泉へ一泊二日で行こうと、高山幹事の発案で決まりました。

十一月五日午前十一時新潟駅前集合した。

東京より東条君、横浜よりは鳥羽君が馳せ参じてくれたものの、新潟勢の出席悪く総勢十一名であった。

マイクロバスで出発、途中中条町に最近建立された高さ三十メートル余りの巨大な親鸞聖人の像を拝観、奉賛会の休憩所で、高山君が用意してくれた、一番搾りのワンカップを傾けながら昼食、次いで乙の乙宝寺を拝観、県内では珍しい三重の塔をバックにして記念撮影。いつもながら大野君にカメラの腕をふるってもらった。



車中では久瀧を叙し、お互いの健康を祝し、家庭の状況等を話し合っているうちに、瀬波温泉ビューホテルに到着した。

部屋で鳥鷲を闘わしたり、缶ビールを開けたり、また日本海に沈む素晴らしい夕日を風呂に入りながら眺めたりしてゆっくり寛いだ後、懇親の宴に入った。

福田幹事は、残念ながら欠席になったが、彼の心遣いで「幻の銘酒、越の寒梅」が届けられ、これで乾杯した。

皆が一緒に泊まれるという安らぎと、綺麗どころのお酌もあり、落ち着いた雰囲気の中で、杯を傾け、歓談に時を過ごした。

来年の会合も一泊二日、温泉地(第一候補咲花温泉)でやろうということになった。

翌日は、村上栄工芸館と鮭の博物館(イロボヤ会館)を見学した後、マイクロバスで、高山君のハートモニカの名演奏を聞きながら帰途についた。

出席者 写真後列右より
神林駒年、東城真佐男、鳥羽正隆、羽田軍次、豊岡憲夫、大野総一郎

後記 今年逝去した方々は、二月に中野一松(中学校校長)五月に小杉秀雄(高校教員)十一月に長谷川友也(医師)十二月に福田茂夫(会社社長)の四名である。

前右より薄田開元、菊地 勲、今井包和、高山雄次郎、有田賢一

旧師寸描

28 回 村田汎愛

RKさん、遊方雑誌を縁におちかづきになれてうれしく存じます。お便りを読んでいて、小黒楯先生を初めあの頃のことどもがなつかしく思い浮かんできました。

小黒先生は母校の先輩、たしか早稲田に学ばれました。中学一年生から初めて英語を教えて頂いたのです。入門期の英語の導入は、現在と大ぶちがっていました。いきなりアルファベットの暗誦、続いて綴り字発音練習、ピイ(P)エイ(A)ペイ、ピー(P)アイ(i)パイ、プー(P)オー(O)ポトやや反り身になって教科書片手に教壇をゆきゆきと歩いて発音される先生の後についてクラスが斉誦するのです。中学一年の第二学期に英語発表会が行

「これはシェイクスピアの原案であつたらんか」という単語があつたらん髪をいれず「警見大魚躍波間」が先生の口から出た。「警見」がそれに当たることを教えられた。英語の先生なのに、よく漢詩を存知先生ってすげえなァと驚きました。たしか先生の雅号は「太白」であつた筈。

濱島操先生は米国で学ばれた。「自雷也」の愛称で生徒から親しまれた眇目短軀の先生の「お姿が浮かぶ。」

先日横浜市内の某アパートの古書展で岩波文庫の絶版本「自然美と其驚異」は残念ながら入手は出来なかつたが、著者のラバックの名が当時の受験必読書の一つ「Use of I」を思い出された。これは教室では習わなくて、スマイルスの「Pushing to the front」勇往邁進論を広島高師出の山本先生から教えて頂いた。私が自習用に熟読したのは南口恒太郎氏の「英文解釈」だ。冒頭の英文は今も名訳と共に記憶に残っている。「The very difference of their nature has produced harmony」性格の相違が反って琴瑟相和する基となつた漢文調の名訳がなつかしい。

四年の副読本にハムレットがあつた。初めて読む英文作品、はやる心を抑えるように

67 回永井画伯の 絵 寄贈

昨年卒業三十周年記念同期会を開いた、67回は、出席者より集めた記念寄付を現金で学校へ贈つたがそれにプラスして何か形に残るものを記念にということから、たまたま学年幹事でもある永井健司君が私の絵を寄付します。と、なり十二月十一日校長室に持参しました。幹事の石田瑞穂、中野 仁、それに母校で英語を教えている沢田俊一、小川トモエ(通信制、旧姓大久保)各氏立ち会い校長先生に贈呈しました。永井君は本業電気工業業の傍ら、絵の修行に励み、市展、県展、その他展覧会にも入選を重ねています。今回の絵もなかなか見事な出来栄で、感心しました。



「There is a clock there.」とより出すのじした。「This is a watch. This is a big watch.」先生が貸して下さいたのはワンタウオッチでした。「Shall I tell you what time it is? It is half past one o'clock.」今だに覚えていて綴り字発音練習「ピイ(P)エイ(A)ペイ、ピー(P)アイ(i)パイ、プー(P)オー(O)ポトやや反り身になって教科書片手に教壇をゆきゆきと歩いて発音される先生の後についてクラスが斉誦するのです。中学一年の第二学期に英語発表会が行

「これはシェイクスピアの原案であつたらんか」という単語があつたらん髪をいれず「警見大魚躍波間」が先生の口から出た。「警見」がそれに当たることを教えられた。英語の先生なのに、よく漢詩を存知先生ってすげえなァと驚きました。たしか先生の雅号は「太白」であつた筈。

濱島操先生は米国で学ばれた。「自雷也」の愛称で生徒から親しまれた眇目短軀の先生の「お姿が浮かぶ。」

先日横浜市内の某アパートの古書展で岩波文庫の絶版本「自然美と其驚異」は残念ながら入手は出来なかつたが、著者のラバックの名が当時の受験必読書の一つ「Use of I」を思い出された。これは教室では習わなくて、スマイルスの「Pushing to the front」勇往邁進論を広島高師出の山本先生から教えて頂いた。私が自習用に熟読したのは南口恒太郎氏の「英文解釈」だ。冒頭の英文は今も名訳と共に記憶に残っている。「The very difference of their nature has produced harmony」性格の相違が反って琴瑟相和する基となつた漢文調の名訳がなつかしい。

四年の副読本にハムレットがあつた。初めて読む英文作品、はやる心を抑えるように



ハイティーン水泳 新中・新高 ⑬

60回 平田大六

23 飯炊き女生徒の怒り

一九四九年夏、県高校水上(註1)選手権大会を旬日にひかえ、私たちは音楽室に蚊帳を吊って合宿に入っていた。そして、中央高校の水泳部の女生徒達に三度の飯を作ってもらっていたのだから、それだけで優雅であった。音楽室は「ヨ」の字に出張っている部分にあってから三方から覗くことができた。いま振り返ると、上級生達は亭主気取りであったと思う。たとえ大黒善也(50回)監督のしごきがあったとしても、お帰りのさいと言ってもらえる環境がそこにあった。

食べたら必ずうまくいったと言うようにと私達は上級生から何度も言い渡されていた。よく観察してみると、飯作りの女生徒達の中には水泳部員ではない中央高校生もいた。自分で「買って」きてくれているのかどうかは分からないが、水泳部のねえさん方には悪いけれど、そっこのほうが、メッポウ綺麗なのである。同じプールで練習していて

それから四十年程の年月が過ぎた一九八七年十二月の五日、江口良介(61回)君等の計らいで、中央高校の水泳部OGとの合同忘年会が開催された。私は勇み立って関川村から出掛けて行った。昔のギヤル達との盃のやりとりの間でそっと「飯作り事件」の話をきりだしてみたのだ。彼女らの心の中にはまだ当時の「怒り」が化石になって存在していたので「理不尽」と思っていた少年の日の私が見方が間違いでなかったことが分かりますとする思いであった。

過きた一九八七年十二月の五日、江口良介(61回)君等の計らいで、中央高校の水泳部OGとの合同忘年会が開催された。私は勇み立って関川村から出掛けて行った。昔のギヤル達との盃のやりとりの間でそっと「飯作り事件」の話をきりだしてみたのだ。彼女らの心の中にはまだ当時の「怒り」が化石になって存在していたので「理不尽」と思っていた少年の日の私が見方が間違いでなかったことが分かりますとする思いであった。

24 プールがあと10メートル長かったら

合宿中止という不祥事はあったが、大黒善也(50回)監督のスケジュールは消化され、一九四九年七月三十一日、長岡市の悠久山プールでの県高校選手権に出場した。私にとっては高校生になってから初めての規模での経験である。長距離界では昨夏からすでに十人近い選手が下馬評に上っていた。その中で最右翼は、高田高校二年の竹内 允選手で、どちらかといえは中距離を得意としたが、後、バタフライに転向し、中央大学時代は五輪候補になった。ボディビルのような体格で、腕力はすさまじく「ペンチ」と呼ばれる

合宿中止という不祥事はあったが、大黒善也(50回)監督のスケジュールは消化され、一九四九年七月三十一日、長岡市の悠久山プールでの県高校選手権に出場した。私にとっては高校生になってから初めての規模での経験である。長距離界では昨夏からすでに十人近い選手が下馬評に上っていた。その中で最右翼は、高田高校二年の竹内 允選手で、どちらかといえは中距離を得意としたが、後、バタフライに転向し、中央大学時代は五輪候補になった。ボディビルのような体格で、腕力はすさまじく「ペンチ」と呼ばれる

和子さん(注2)に撮影していただいた一枚の写真が今でも私の家に残っている。それに、久須美博(58回)さん、児玉光(59回)さん、青柳淳夫(60回)さんと私の四人で、私の上半身だけが白い開襟シャツで下部には赤フン(註4)で絞り上げられた少年の部分が小さく見え隠れしていた。(つづく)

(註1)現在の姓は水沢。 燕市在住

(註2)現在の姓は山本。 埼玉県川口市在住

(註3)赤い色のフンドシのこと。やがて競技規則で着用禁止となった。理由はハイレグすぎるため。

直後から隣同志でも水中からは見えない。呼吸の際に無理に顔の位置を高くすれば見えるけれども、これではバランスが崩れて、スピードに影響する。ターンするときに素早く見回すくらいで、途中の自分の勝敗の位置が分からない。200を過ぎてから竹内との差が次第に詰まって行くのが私には分かった。泥水の中だから竹内には気づかれていない。が、最後の20メートル位で、ようやく私の接近は発見されてしまい、その差で逃げられた。竹内は優勝、私が二位だった。あと10メートル欲しかった、などと大黒監督に言われた。

川原のぞみさん 国体百米背泳で 全国七位の快挙

陸上部
・県選抜陸上競技大会
男子 400MH
二位 小泉賢滋
3000M障害
四位 大地悟志
女子走高跳一位 高橋亜紀子

後輩の活躍

・県高校駅伝(男子) 六位
柔道
・BSN杯 71kg以下級
二位 堀口大助
・インターハイ 71kg級
ベスト8 伊藤肇

水泳部
・国体予選 女子 100M背泳一位 川原のぞみ、男子 100M背泳三位 桑原大輔、男子 200M三位 桑原大輔
・国体夏季大会 少年女子 100M背泳七位 川原のぞみ(なお、全日ジュニア合宿のため台湾へ昨年遠征しました。)

フェンシング部
・秋季県大会 女子団体一位 男子団体一位 女子フルレ一位 小林容子、同三位 勝又浩子

ラグビー部・NHK杯四位

吹奏楽部
・アンサンブルコンテスト県大会銀賞(菊池知久、出家)ました。

物理部
・第32回J.Aコンテスト 社团局部門 信越一、第33回フィールドデー 社团局部門 全国十位、二位(信越一位)

・秋季県大会男子団体三位

☆ 突然の中東危機の勃発や、長い間の壁が取り払われて、東西統一ドイツの誕生など、予期せぬ出来事の多い昨年でした。今年はどうなるにせよ、皆さんのご多幸とご活躍を祈念します。(石)

編集後記

☆ 明けましておめでとうございませう。

☆ 昨年は、新潟市長選挙が行なわれ、長谷川義明市長(61回)が誕生致しました。ご多忙の処へ伺いましたが、快く長時間お相手くださいました。これからの活躍を祈ります。

☆ 68回生の卒業30周年記念事業はいかがでしょうか。各期いろいろな企画が楽しみです。

☆ 校長先生の文部大臣表彰おめでとうございました。

☆ 卒業生や、著名人による在校生向けの講演会は好評のようです。66回小林啓志さんご苦勞様でした。

☆ 事務局の岩田さんが退職されました。長い間お世話になりました。同窓会の生き字引きが見えなくなり、寂しいですね。それだけに送別会は心のもったスピーチが続きました。

画人笠原軌と その父漁村 (十八)

60回 小林智明

「遊方会雑誌」と「芝蘭」(その三)
「芝蘭」は深林に生ずる香り高い芳草のこと、美しい交わりを「芝蘭之交」などという。たとえ逆境にあっても節を高く持するにも用いられる名は、節和会にふさわしい誌名であった。

題字は服部膺先生の書であった。これについては、六回生の伊藤太郎兵衛(黒川村)が、創立六十周年記念誌「青陵回顧録」(昭和二十七年発行)の「中学時代」という文の中に、「服部膺先生は漢文の先生でしたが講義が大変面白く其時間を楽しみにしたことが思い出されます。……私共の学級で芝蘭と云う雑誌を発行し先生に題字を書いて貰ったのですが、字が小さ過ぎると云って書直しを願いましたら大変に怒られたことがありました。結局は駄々子に勝てんと思われたか書き直して下さった。……」と記している。

服部膺先生は、嘉永六年(一八五三)今の岡山県高梁市の旧松山藩士の家に生まれた。松山藩学の有終館や山田方谷塾に学び、後に方谷の弟子、三島中州の二松学舎の助教となり、そこで高橋翠邨と同僚であった。新潟中学校へは明治二十七年九月に赴任、そこでも二人は一年半机席を並べて共に漢文を教えた。この服部先生の授業の面白さについては、五回生の桜井天壇も「……中学では私達は一年から五年に至る迄其々日本外史、文章軌範、唐宋八家文、史記、左傳を教わったのですが、取り分け深き感銘を与えられたのは高橋翠邨先生の八家文、服部膺先生の史記、左傳でした。前者は主として文章の妙味を生徒に感懐せしむるに長じ、後者はドラマチックな講義で生徒を陶醉せしむる大手腕を有する先生でした。其後私は文科大学で森槐南の白楽天の講義を聞

いたことがあるが、見聞の狭い私に取っては槐南の講義と此の服部先生のそれとは天下の双壁であったと今でも信じてゐるのです。……」と、「中学時代の思い出」(遊方会雑誌第三十二号、大正七年発行)という文で述懐している。

遊方会雑誌と芝蘭についてはこれくらいにして、この辺で美術学校の軌の方に話を戻してみたい。明治三十九年の春に、美術学校二年生の軌を頼って後輩の鈴木良治と富田温一郎が上京、三人で自炊生活をして二人の美校受験を助けた軌の、その後の下宿先は今のところはっきり分からない。当時、新潟中学校出身者の寮舎であった本郷区曙町の不識庵へも出入りしていたことであろうとは容易に想像がつくのであるが、長いことそこにいたとは思われない。何年頃、どのくらいの間いたかは、はっきり分からない。ただ後年、この不識庵出身者の同人会が、水上温泉や塩沢の雲洞庵などで開催された際には、軌も同人として方障を差し繰って参加していることよりそれが推察されるのである。

不識庵は「明治時代新潟中学を卒業、東京へ出て一高や大学等へ入学した大多数の人は、大抵本郷か神田辺の下宿より通学するのが普通であった。当時帝国大学に通学しておられた佐藤政太郎氏(八回生、新崎)先輩が或る時、下宿の食事が不味いので不便が甚だ多いと云うので、明治三十八年十一月に本郷区曙町九番町に平屋建六帖六室、庭のある家を安形金次と云う家主より借り受け、新中卒業の中村隆治氏(八回生、水原町)山崎良平氏(九回生、小池村)相馬蘭二氏(十一回生、五十公野)長谷川寛氏(十二回生、西堀七)山崎武二郎氏(十二回生、七谷村)等の同志を引き入れたのが創庵の起源であります。其の後寮舎の名を何と云うことになり、上杉謙信の号「不識庵」を寮名とすることになった。郷里より炊事婦と留守居を雇って食事一切をせしめ、庵の経営は万事在庵者の共同経営で下宿よりも費用は安く自由に勉学も出来た。……」と十九回生の本

田喜作(本町通五)が「不識庵の思い出」という文を「青陵回顧録」に寄せている。

軌は明治四十年の正月には、本郷区千駄木林町の積翠館という宿にいたことが次のハガキではっきりしているの、その少し以前よりここに下宿していたようだ。それは新中時代の懐かしい恩師人見先生からのもので、「新潟の雪景御覧に入れたくと思ひ居候処へ、去る九日、一日にして一尺五寸の積雪有



山田熊男書記

人見泰三郎先生

服部膺先生

之、器械を持ち出したるも漸く細き道のつきたるのみなれば、適當なる位置まで行きて器械を据へる事は叶はず、遂に此の如き閑屋の雪景一枚撮影致候、其後降雪なく時々好天気も有之本日は此雪も殆んで解け申し候、尚今後の降雪を待ちて撮影御覧に入れ可申候。新潟市旭町通一番町五八 人見泰三郎」とある私製の写真ハガキ(本田喜作旧蔵)で、明治四十年一月十八日の日付が入り、松を背にした閑屋の田舎風の民家の屋根に二、三十程の積雪が白い。

人見泰三郎は数学の先生で、理化学で数学、物理、化学を修め、当時すでにカメラ器材など駆使していたようだ。写真で見ると長身で体軀堂々、他を圧するような偉丈夫で、和服を着た山嵐の風貌の内にも優しさも感じられる。明治元年(一八六八)岡山県御野郡御野村の生まれ、新潟中学校へは軌が二年生の明治三十二年六月に赴任して来た。これはその年の五月に、教頭より新潟中学校の五代目の校長になった同郷の先輩、森岩太郎の招引であったと思われる。森校長は文久元年(一八六一)人見泰三郎と同じ御野村の生まれ、学校も東京帝国大学理化学出身で、山川健次郎や長岡半太郎に教えを受けた秀才であった。新潟中学校へは明治二十九年十二月に赴任、三十二年五月に校長になった。
赴任当時の人見先生は学校町一番町に住んでいたもので、白山浦一丁目の漁村一家とは家も近く親しく交際していた仲であった。四月になってその人見先生と山田熊男書記が、五年生三十名を引きつれて修学旅行を兼ね産業博覧会を見学を上京して来た。一行は下谷の法養寺というお寺を宿舎にして五泊六日の日程で博覧会と都内を見学した。また帝大在学の玉木二五三九(五回生、南浜通)に案内されて、帝大、一高、植物園なども見学した。その間の一夕、新中出身の桜井天壇、佐藤政太郎、青木得三など二十余名が法養寺に参集して盛大な交歓会が催された。人見先生と山田書記の上京なので軌も多分訪ねたと思われるが、確たる資料がないのは、きりしいない。山田書記も白山浦一丁目に住んでいて、漁村、軌の父子と親しかった。軌が帰省の折など時には古町の花柳街などへ連れて行った人であった。
山田熊男は明治十四年(一九八一)与板町の生まれ、明治三十一年に新潟中学校の書記となったのは軌の入学と同じ年であった。字が上手だったので後に習字の授業の囑託もした。大正六年に東京瓦斯会社書記として去るまで、約二十年間新潟中学校に勤務した有能書記であった。(つづく)

平成二年度青山同窓会会費納入者名簿

(4月より12月20日まで納入済のもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。

1口1,000円でできるだけ2口以上でお願いします。

郵便振替口座 新潟5-4455 青山同窓会
第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会

Table listing members and their contributions, organized by amount (e.g., 18回, 21回, 26回, etc.) and including names and addresses.

夫史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

渡邊 73回 石川 74回 中橋 75回 石田 76回 大井 77回 岩加 78回 赤野 81回 砂二 82回 大代 83回 玉木 85回 今谷 86回 清水 87回 今河 92回 井内 93回 城

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名

國夫 史淳夫彦孝之進賢之治昭宏
夫潤隆耕生弘郎明憲一巳助
茂士夫滋一一修実一二
研芳紀
昭光春正
茂榮慎
一即直子之
明夫文康夫
也子義
一
重義微彦
一
聖子
明志
和美
通信制
2名